

和久田智靖先生（医学科23期）アンケートご回答

質問1 受賞の喜びをお聞かせください。

浜松医科大学の卒業生としてぜひとも受賞したい賞の一つでした。このような名誉ある賞を頂けることは、私にとっては誇りです。

質問2 いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

私は2009年3月に本学大学院博士課程を修了後、精神疾患と神経炎症との関連を調べる研究を行ってきました。今回のテーマに取り組んだきっかけは、本学精神医学講座の山末英典教授が2018年から自閉スペクトラム症に対する改良型オキシトシン経鼻製剤の医師主導治験を実施し、治験分担医師としてこの治験に参加したことです。この治験ではオキシトシンによる自閉スペクトラム症中核症状の改善効果に、U字型の用量反応関係があることが示されましたが、そのメカニズムは不明であることから、オキシトシンと血漿サイトカインとの相互作用を調査する本研究に取り組みました。

質問3 今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

治験分担医師として治験に参加することが初めての経験で何もかもが勉強になりました。本学の臨床研修センターの皆様にご多大なご支援をいただき、山末教授の丁寧な指導と細やかな配慮の下で行われ、幸か不幸か治験を進めていく苦労はあまり感じませんでした。論文作成では苦労が多々ありましたが、一番大変だったのは査読者が提案する統計解析への対応でした。この点は山末教授と本学子どもこころの発達研究センター西村倫子先生と検討を重ねることで、より頑健な統計結果を示すことができました。

質問4 近況をお聞かせください。

私は現在、本学附属病院で精神科病棟の病棟医長として入院患者の診療や、初期研修医や精神科専攻医の教育にあたっています。またリエゾンチームの担当として、一般病棟を回診し、せん妄や不眠などの対応にあたっています。

質問5 今後の課題についてお聞かせください。

精神疾患領域の重要な課題として、バイオマーカーの確立および有効な治療法が確立されていない精神疾患の新規治療薬の開発が挙げられます。また、本研究に関係した課題としてオキシトシン経鼻製剤の実用化に向け具体的な展開計画を策定する必要があります。これらの問題を解決するために、現在今回の研究結果をさらに展開させ、経鼻オキシトシン製剤が脳内の免疫機能を担っているミクログリアにどのような影響を与えるか、PET検査を用いた研究に取り組んでいます。

質問6 今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

同窓会が主催する地域貢献活動や同窓生の継続的なつながりによって、浜松医大の発展や浜松の魅力アップにつながることを願っております。